

様式 7

:「学校」部門

河川基金助成事業

「甲地あおぞら水族館」 報告書

助成番号：2020-7212-014

青森県東北町立甲地小学校
校長 内海 浩 幸

2020 年度

助成番号	助成事業名		学校名			
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館		青森県東北町立甲地小学校			
校長名	内海 浩幸	担当教諭名		古川 美香		
過去の助成実績	なし <input type="checkbox"/> [助成番号：2019-7212-018 助成事業名：甲地あおぞら水族館]					
キーワード						
対象児童生徒	高校生（ 年 名） 中学生（ 年 名） 小学生（ 4年 5名）					
対象河川名	土場川 (高瀬川水系)	活動場所の指定状況		<input type="checkbox"/> なし 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ						
テーマ：地域の川や生き物を知ろう ねらい：水と生活，自然環境との関連性についての関連性についての見方や考え方を育てる。 評価の観点：知識・技能，思考・判断・表現，主体的に取り組む態度 活動時期：6～9月						
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	35時間	時間	時間	時間	時間	35時間
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	<input type="checkbox"/> 市民団体	<input type="checkbox"/> 専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	・甲地地域水土里保全会（土場川土地改良区）と連携して生態系調査を実施した。 ・小川原湖自然楽校の方を講師に源流の見学を実施した。					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	<input type="checkbox"/> 学年単位	学校全体	図鑑，絵日記		
対外発表 ※新型コロナウイルス感染予防のため自粛						
安全対策に関する課題						
・今後も川の見学の前には，しっかりと実地調査や事前指導を行い，事故やけがのないように努めたい。 ・野外での活動が中心となるので，水分補給等に十分配慮する。 ・新型コロナウイルス感染予防のためマスク・手洗い・消毒等の指導も継続して必要である。						
活動の成果と今後の課題・展開						
・川の源流に触れるとともに地域の生き物について興味をもつことができた。さらに地域の環境への理解を深められるように，学年間の活動内容のつながりを大切にして段階的に活動できるようにしていきたい。						
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録 する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査系	魚類	6月	
			生物調査系	水生昆虫	6月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名		学校名			
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館		青森県東北町立甲地小学校			
校長名	内海 浩幸	担当教諭名	宮古 雄大			
過去の助成実績	なし <input checked="" type="checkbox"/> [助成番号：2019-7212-018 助成事業名：甲地あおぞら水族館]					
キーワード						
対象児童生徒	高校生（ 年 名） 中学生（ 年 名） 小学生（ 5年 15名）					
対象河川名	土場川 (高瀬川水系)	活動場所の指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ						
テーマ : 地域の水辺に生息している生き物を守る ねらい : 地域の環境に興味・関心をもち、地域の環境を守ろうとする意識をもつことができるようにする。 評価の観点 : 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度 活動時期 : 5～12月						
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	40時間	時間	時間	時間	時間	40時間
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	<input checked="" type="checkbox"/> 市民団体	<input checked="" type="checkbox"/> 専門家等
<input checked="" type="checkbox"/> 河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	・甲地地域水土里保全会（土場川土地改良区）と連携して水質調査・生態系調査を実施した。 ・国土交通省高瀬川河川事務所がビオトープの整備に協力している。 ・小川原湖自然楽校の方を講師に生物調査を実施した。					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	<input checked="" type="checkbox"/> 学年単位	学校全体	新聞、ワークシート等		
安全対策に関する課題						
・野外での活動が中心となるので、水分補給等に十分配慮する。 ・新型コロナウイルス感染予防のための手洗い、消毒、マスク等の指導が今後も必要である。						
活動の成果と今後の課題・展開						
・児童だけでなく、地域と連携した環境学習にしていくために、保護者も活動を知ることができるような体制を整えていきたい。また、4年生から6年生のつながりをもった河川教育の活動ができたので、学年間の縦のつながりをさらに意識した河川教育の展開をしていきたい。 ・発表会については、学校行事等の関連でこれ以上拡大せず、町のテレビや広報を利用して活動の成果をピーアールできる場があればよいと思う。						
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録 する活動分野	学校部門	教育活動	生物調査系	魚類	7月	
			生物調査系	生き物と環境	7月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P. 47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名			学校名		
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館			青森県東北町立甲地小学校		
校長名	内海 浩幸	担当教諭名		松嶋 幸湖		
過去の助成実績	なし <input checked="" type="checkbox"/> [助成番号：2017-7212-018 助成事業名：甲地あおぞら水族館]					
キーワード						
対象児童生徒	高校生（ 年 名） 中学生（ 年 名） 小学生（ 6年 14名）					
対象河川名	小川原湖 (高瀬川水系)	活動場所の指定状況		<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの水辺 水辺の楽校		
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ						
<p>テーマ : 地域に生息している生物の多様性とそれを支える環境との関連性について調べよう。</p> <p>ねらい : 地域の環境に興味・関心をもち、地域の環境を守ろうとする意識をもつことができるようにする。</p> <p>評価の観点 : 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度</p> <p>活動時期 : 5～12月</p>						
活動形態	総合的な 学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 ()	合計
上記の 活動時間数	40時間	時間	時間	時間	時間	40時間
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	<input checked="" type="checkbox"/> 市民団体	<input checked="" type="checkbox"/> 専門家等
<input checked="" type="checkbox"/> 河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（ <input checked="" type="checkbox"/> 漁協、 <input checked="" type="checkbox"/> 農協）等		企業	その他
支援概要	<ul style="list-style-type: none"> ・甲地地域水土里保全会（土場川土地改良区）と連携してビオトープの整備を行った。 ・国土交通省高瀬川河川事務所がビオトープの整備に協力している。 ・小川原湖自然楽校の方を講師にカヌー体験を実施した。 ・漁協組合の方を招き、水産教室を行った。 					
活動成果	発表形態			成果作品		
	学級単位	<input checked="" type="checkbox"/> 学年単位	学校全体	パワーポイント資料、ポスター ワークシート等		
安全対策に関する課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー体験では、学校で購入したライフジャケットを着て活動した。安全なカヌーの乗り方などを指導してもらい、全面的に小川原湖自然楽校の方に協力してもらった。協力なしでは活動は難しいところがある。 						
活動の成果と今後の課題・展開						
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体が増え、地域との連携もスムーズにしている。野外活動が多いので、活動時間がかかることが多い。体験も含めた学習内容を総合的な学習の時間や環境教育としてとして無理のない範囲にしていける必要がある。 ・学校としての系統性を持った取り組みになってきたので、教員が変わっても引き継ぎ、環境教育に力を入れていってほしい。 ・休校などでスタートが遅れたことや新型コロナウイルス感染予防のため発表会の時間を確保できなかったが、発表会は縮小してもぜひやっていきたいと思う。 						
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録 する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川下り	9月	
			生物調査系	生き物と環境	7月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212- 014						
2.単元名	水のふるさと探検隊										
3.目標	地域の河川で自然観察や植栽活動をしたり、川の様子を見学したりする活動を通して、自分たちの生活で使う水との関係に気付き、地域の河川を保護していこうとする気持ちをもつことができる。										
4.実施学年 人数	第4学年 5名										
5.場所	上北郡東北町弥太郎付近（鳥口橋付近）土場川（高瀬川水系）、上北郡七戸町天間館字北天間館付近 天間ダム										
6.単元構想（総時間数）	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
4学年	<p>地域の川のことについて知ろう（25時間）</p> <p>地域の川にどんな川があるかを知り土場川土地改良区と連携して、高瀬川の源流の見学、生態系調査を通して、自分たちの生活と水とのかかわりに気付かせ、地域の川や身近な環境への興味や関心を高めるようにする。</p>		<p>自分の生活をふり返ろう（10時間）</p> <p>これまでの活動や自分たちの生活を振り返り、地域の水環境を守るために、自分たちにできることを考えさせ、自分の言葉でまとめができるようにする。</p>								
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の川にどんな川があるかを知る。 ○自分たちの生活と水とのかかわりから、課題を見つける。 ○土場川土地改良区や小川原湖自然楽校と連携して、地域の水路で生態系調査を行う。 ○専門家の講師を招き、源流を観察する。 ○分からないことは専門家に質問したり、図書館やインターネットで調べたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図鑑やワークシートに分かりやすくまとめる。 ○自分で調べた生き物について紹介する。 ※新型コロナウイルス感染予防のため、単学年で発表 								
評価項目	<p>【知識・技能】 身近な自然について調べえることを通して、地域の水環境や生き物について知ることができる。</p>		<p>【思考・判断・表現】 自然や川について、分かったことや考えたことを分かりやすくまとめることができる。</p>			<p>【主体的に関わり組む態度】 自分たちの生活と水とのかかわりに気付き、身近な自然を大切にしようする気持ちをもつことができる。</p>					

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

(NO. 2)

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212- 014
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

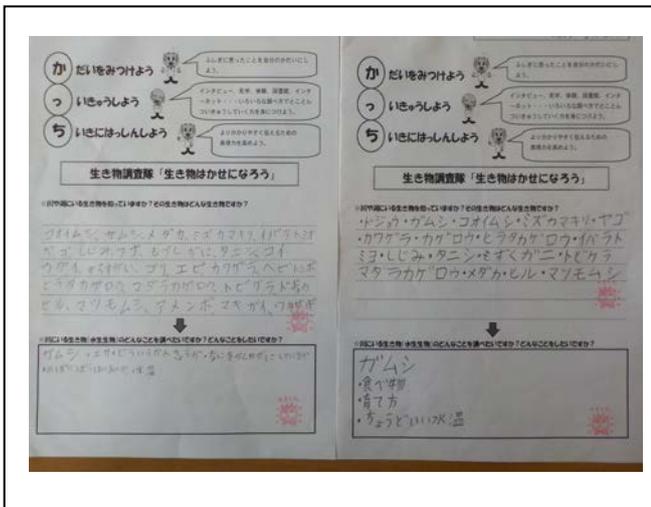
7.実際に行った単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
4 学 年	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の川のことについて知ろう (25時間)</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">地域の川にどんな川があるかを知り土場川土地改良区と連携して、高瀬川の源流の見学、生態系調査を通して、自分たちの生活と水とのかかわりに気付かせ、地域の川や身近な環境への興味や関心を高めるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○地域の川にどんな川があるかを知る。 ○自分たちの生活と水とのかかわりから、課題を見つける。 ○土場川土地改良区や小川原湖自然楽校と連携して、地域の用水路で生態系調査を行う。 ○専門家の講師を招き、源流を観察する。 ○分からないことは専門家に質問したり、図書館やインターネットで調べたりする。 </p>					<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自分の生活をふり返ろう (10時間)</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">これまでの活動や自分たちの生活を振り返り、地域の水環境を守るために、自分たちにできることを考えさせ、自分の言葉でまとめができるようにする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図鑑やワークシートに分かりやすくまとめる。 ※別紙 児童の作品添付 ○自分で調べた生き物について紹介する。 ※新型コロナウイルス感染予防のため、単学年で発表 </p>						
												

8.成果と課題

- 身近な地域と生活との関わりを知ることで、児童の環境保全・水質保全に対する思いが高まった。
- 他教科との関連を図ることによって、学習につながりをもって意欲的に取り組む児童の姿が見られるようになった。
- 生き物の名前を知るだけでなく、生き物が生息する環境について調べていこうという気持ちを次学年につなげていく必要がある。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：学校内（教室）

日付：7月10日

コメント：オリエンテーション

新年度をスタートするにあたり、総合的な学習の時間でどんな学習を進めていくか、オリエンテーションを行った。

地域を流れる川や小川原湖にはどんな生き物が生息しているのか、また川にいる生き物のどんなことを調べたいのか考えたり、話し合ったりした。

また、4年生の活動が5年生、6年生の活動へつながっていくことも伝えた。また、総合的な学習の時間を通して、どんな力を高めたいのかを説明した。児童はとても楽しみにしているようだった。

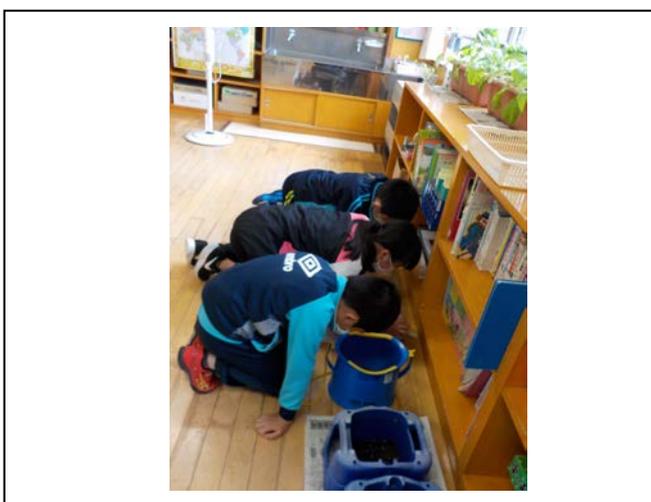


フィールド：高瀬川源流（和田川）

日付：7月16日

コメント：生き物採集1回目

小川原湖自然楽校の相馬孝さんをゲストティーチャーとして招き、川に入って生き物採集をした。児童はまず川の水が透明なことや普段目にする川（土場川）とのちがいに驚いていた。川に入ったり、生き物採集したりする経験が初めての児童は恐る恐る活動していたが次第に楽しんで活動していた。安全対策としてライフジャケットを着用させ、引率者を3人にするなど安全に気をつけて体験活動が行えるようにした。



フィールド：学校内（教室）

日付：7月16日（上記と同日）

コメント：高瀬川見学

高瀬川で採取してきた生き物を観察して、観察シートに記録した。川の中で見るのとはちがってそれぞれの生き物の体の特徴の細かい部分にも気づくことができた。また動きの様子も観察することができた。数匹は教室で観察のために水槽で飼育するために残したが、それ以外の生き物たちは小川原湖自然学校の相馬孝さんをお願いして高瀬川源流に放してもらった。

注）写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：土場川周辺 排水路

日付：8月20日

コメント：生き物採集2回目

小川原湖自然楽校の相馬孝さんをゲストティーチャーとして招き、土場川周辺の排水路で生き物採集を行った。児童は高瀬川上流とのちがいに驚いていた。さらに濁った水の中からたくさんの生き物が取れることにさらに驚いていた。環境の違いによって住んでいる生き物にも違いがあるということにも気づくことができた。



フィールド：ビオトープ

日付：8月20日

コメント：生き物をビオトープに放流

土場川周辺の排水路などは圃場整備のため生き物を元の場所に戻しても生きていけないということで採集した生きものをビオトープに放流した。今年度は5・6年生がビオトープの整備をすることや来年度は自分たちがこのビオトープの整備を知りとても楽しみにしていた。また学校で飼育するために一人ずつミルソーに入れて生き物を学校にもってきた。その後、9月17日に生き物採取3回目、10月15日に4回目を行い、ビオトープへ放流した。



フィールド：学校内（教室）

日付：2月25日

コメント：4年総合発表会（参観日）

一人一人がまとめた生き物について、保護者に向けて発表会をした。自分たちが採集したり、飼育したりした生き物を紹介することで、4年生の子どもたちは生き物に対する愛着をさらに深めることができた。また、教室で飼育している生き物のことをクイズにすることで、もっと深く知りたいという気持ちも高まった。今年度は5年生と一緒にビオトープへ放流する活動をすることで、来年度以降の学習を楽しみにするとともに、地域に住む生き物たちに関わる学習をしていることを実感できたようだ。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212- 014						
2.単元名	ビオトープ改善隊										
3.目標	湖に注ぐ川の水辺の生き物を採取したり、それらを飼育したりする活動を通して、生き物が生息しやすい環境とそうでない環境を比較し、生き物同士やそれを取りまく環境との関係を考えることができる。										
4.実施学年 人数	第5学年 15名										
5.場所	上北郡東北町弥太郎付近（鳥口橋付近）土場川，上北郡東北町蓼内下付近ビオトープ										
6.単元構想（総時間数）											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
5学年	「ビオトープを知ろう」（4時間） オリエンテーションを行い、ビオトープや地域の河川，生物などについて紹介し，土場川への興味や関心を高める。		「生き物や水質を調べ，自分の課題を追求しよう」（26時間） 水質や生態系調査を行い，採取した生物をビオトープに放流し，生き物が生息していた場所とビオトープを比較しながら観察したり，興味をもったことについて調べたりすることによって，生物を取りまく環境について考えることができるようにする。			「自分たちにできることを考え，まとめよう」（10時間） 生き物について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ，分かりやすく伝えることができるようにする。					
主な学習活動	○小川原湖の現状や水と生活とのつながりを知る。（土場川が小川原湖へ注いでいる川であることを知り，土場川と小川原湖の関係について学ぶ） ○6年生に，ビオトープの工夫についてアドバイスをもらい，ビオトープの構想を合同で考える。		○実際に川で生き物調査を行い，生き物を採取する。川の水質も調べ，生き物と水質の関係についても調べる。 ○採集してきた生き物の生態について調べる。 ○採集した生き物をビオトープに放流し，秋になったら再び観察する。 ○土地改良区と連携して環境保全をテーマにしたポスターを作りにとりかかる。 ○生き物が好きな環境やえさなどを専門家に聞いたり図鑑やインターネットで調べたりする。 ○定期的に観察し，生き物の成長の具合やビオトープの環境について調べる。			○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図や写真などを使って分かりやすくまとめる。（個人またはグループ） ○発表会に向けた練習をする。 ○活動に携わった河川事務所，小川原湖自然楽校，土地改良区などの専門家を招いて発表会を開き，地域に発信する。（4・5・6年合同で行い，お互いの成果を話し合う。） ※新型コロナウイルス感染予防のため自粛					
評価項目	【知識・技能】 身近な自然の環境について調べたり，水と生き物の生態系を知ったりすることができる。		【思考・判断・表現】 採取した生き物の特徴をとらえ，生き物を飼育・保護するために必要なことを考えることができる。			【主体的に取り組む態度】 これまでの環境へのかかわりを見直し，環境保護のために自分にできることを考え，地域の環境に関わろうとすることができる。					

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212- 014
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
5 学 年	<p>「ビオトープを知ろう」 (4時間)</p> <p>オリエンテーションを行い、ビオトープや地域の河川、生物などについて紹介し、土場川への興味や関心を高める。</p> <p>○小川原湖の現状や水と生活とのつながりを知る。(土場川が小川原湖へ注いでいる川であることを知り、土場川と小川原湖の関係について学ぶ)</p> <p>○専門家を講師に招き、ビオトープのことについて学び、自然の浄化作用を利用したビオトープ作りに一緒に携わっていくことを知る。</p> <p>※ビオトープ 「甲地あおぞら水族館」</p>			<p>「生き物や水質を調べ、自分の課題を追求しよう」 (26時間)</p> <p>水質や生態系調査を行い、採取した生物をビオトープに放流し、生き物が生息していた場所とビオトープを比較しながら観察したり、興味をもったことについて調べたりすることによって、生物をとりまく環境について考えることができるようにする。</p> <p>○実際に川で生き物調査を行い、生き物を採取する。川の水質も調べ、生き物と水質の関係についても調べる。</p> <p>○採集してきた生き物の生態を調べ、教室内でも観察を続ける。</p> <p>○採集した生き物をビオトープに放流し、秋になったら再び観察する。</p> <p>○土地改良区と連携して環境保全をテーマにしたポスターを作りとりかかる。</p> <p>○生き物が好きな環境やえさなどを専門家に聞いたり図鑑やインターネットで調べたりする。</p> <p>○定期的に観察し、生き物の成長の具合やビオトープの環境について調べる。</p> <p>○土地改良区と連携してごみ拾い活動を行う。</p>			<p>「自分たちにできることを考え、まとめよう」 (10時間)</p> <p>生き物について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ、分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図や写真などを使って分かりやすくまとめる。</p> <p>別紙) 児童の発表資料添付</p> <p>○発表会に向けた練習をする。</p> <p>※新型コロナウイルス感染予防のため自粛</p>				
											

8.成果と課題

- 児童にとって興味・関心の高い生物調査をメインに学習を展開することによって、児童の地域の環境保全に対する意識が高まり、「養育・繁殖」にも興味をもつようになった。
- 生物が生息していた場所とビオトープを比較し、より生息していた環境に近づけるための改善策を児童が主体的に考えることができた。
- 専門家がいることで、ネットには頼らずに、聞きたいことや分からないことなどを積極的に聞き、課題追求に役立つ姿がたくさん見られた。
- ビオトープが学校から離れた場所にあるため、改善していくためには、意図をもって計画的に活動を展開していく必要がある。

様式13

[学校部門]

[活動写真]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：学校内（教室）

日付：6月18日

コメント：オリエンテーション

新年度をスタートするにあたり、総合的な学習の時間でどんな学習を進めていくか、オリエンテーションを行った。6年生から昨年度の取組やビオトープの工夫について、アドバイスを受けた。

昨年度の活動で、いろいろな生き物が生息していることを学習した。今年度は、間手場用水路が区画整備のため、そこに住んでいる生き物を捕まえたり、ビオトープに移したり、教室で飼育・観察することを伝えた。



フィールド：ビオトープ

日付：7月15日

コメント：ビオトープの生物調査

土場川土地改良区のスタッフや小川原湖自然楽校の先生にも協力してもらいながら、ビオトープに生息している生物を捕まえ、観察を行った。

6年生が改良したビオトープの様子を調べたり、そこに生息している生物の特徴を考えたりした。また、アメリカザリガニを捕まえたことから、在来種と外来種の説明を受け、ビオトープの生態系を守っていくことの大切さに気が付いていた。



フィールド：間手場用水路とビオトープ

日付：8月20日

コメント：間手場用水路の生き物をビオトープへ移す

4・5年生合同で間手場用水路で、水中の生物を捕まえた。小川原湖自然楽校の相馬孝さんや土場川土地改良区のスタッフの方々にも協力してもらった。ガムシやミズカマキリ、キタノメダカ、イバラトミオなどたくさんの種類の生き物がいたことに児童は驚いていた。捕まえた生物をビオトープに放したあとに、児童は以前に観察したときと変化があるか進んで調べていた。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

[学校部門]

[活動写真]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：間手場用水路とビオトープ

日付：10月15日

コメント：秋の生き物観察と移入

夏から秋に変わり、間手場用水路の様子が変わっていた。植物の背丈が短くなっていることや草などが枯れて、緑色から茶色に変化していた。水中の生物にも何か変化があるかも知れないと、興味をもって生き物を捕まえていた。また、自分でしかけを作ってきて、それにタイリクバラタナゴを捕まえることができて、喜んでいた。

キタノメダカやタニシ、ドジョウ、フナなどたくさんの種類の生き物を捕まえ、それらをビオトープに放すことができた。



フィールド：教室

日付：10月16日

コメント：教室の水槽で観察

キタノメダカを持ち帰って教室内で観察を続け、繁殖させたいという意見が出たので、数匹持ち帰ることにした。飼育方法や餌、水槽の環境について自分たちで調べ、捕まえてきた生き物が住みやすいように力を合わせて、水槽を整備した。生き物に対する興味や関心が以前よりも高くなっていた。毎日観察して、変化がないか楽しみにしている児童もいた。

注) 写真は5～6枚程度 (枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。)

アドバンス 活動報告書

(NO. 1)

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212-014						
2.単元名	小川原湖とともに										
3.目標	ビオトープの改善活動や地域の自然観察体験から、生き物同士の関係や人間との共存、地域をとりまく環境について考え、環境保全に対する意識をもつことができる。										
4.実施学年 人数	第6学年 14名										
5.場所	上北郡東北町蓼内下（湖畔橋）付近、小川原湖湖畔										
6.単元構想（総時間数）											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
6 学 年	「小川原湖について考えよう」（5時間）		「ビオトープを整備しよう」・「小川原湖を感じよう」（20時間）				「自分たちにできることを考え、まとめよう」（15時間）				
	小川原湖に関わっている人々やその活動について知ることを通して、地域の環境保全について考えることができる。		小川原湖に生息する生き物やまわりの環境の観察、カヌー体験を通して、地域の自然の美しさ、地域の良さを感じることができる。				小川原湖について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ、分かりやすく伝えることができる。				
主 な 学 習 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生と6年生合同でオリエンテーションを行い、川と小川原湖の関係について学ぶ。 ○ビオトープの改善について、5年生にアドバイスを与える。 ○水産教室を行い、小川原湖漁協組合の方をゲストティーチャーに招き、小川原湖について知る。（特産物、水質、漁獲量の変化など） 		<ul style="list-style-type: none"> ○ビオトープに放流した生き物を観察するとともに、ビオトープを整備をする。（水草の採取・植樹など） ○カヌー体験を行い、水面や湖畔の様子を観察する。（小川原湖に生息する野鳥や水草の学習） ○課題を追求していく中で、疑問点や分からないことが出てきた場合は、ゲストティーチャーを招いて聞く。 ○地域の環境保全のポスター作りにも1学期から取り組ませておく。（土場川のポスター展への出品） 				<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図や写真などを使って分かりやすくまとめる。 ○調べたり、まとめたりする中で、疑問点などが出てきた場合は、ゲストティーチャーを招いて聞く。 ○発表会に向けた練習をする。 ○河川事務所、NPO法人、漁協組合などの専門家、保護者等を対象にした発表会を開き、地域に発信する。（4・5・6年生合同で行い、お互いの成果を話し合う。） 				
	評 価 項 目	<p>【知識・技能】 生き物の生態系と環境とを関連付けて考え、地域の自然の保全に関わろうとすることができる。</p>		<p>【思考・判断・表現】 様々な体験活動から感じたことや得た知識を地域の自然の保全と関連付けて考え、解決していくことができる。</p>				<p>【主体的に取り組む態度】 これまでの環境へのかわりを見直し、環境保護のために自分にできることを実践していくことができる。</p>			

※申請時に作成したものを基にした実施計画を記載

アドバンス 活動報告書

1.助成事業名	甲地あおぞら水族館	学校名	東北町立甲地小学校	助成番号	2020-7212- 014
---------	-----------	-----	-----------	------	----------------

7.実際にいった単元構成 注) 活動の様子を記述し、写真を添付してもよい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
5 学 年	<p>「小川原湖について考えよう」 (5時間)</p> <p>小川原湖に関わっている人々やその活動について知ることを通して、地域の環境保全について考えることができる。</p> <p>○5年生と6年生合同でオリエンテーションを行い、川と小川原湖の関係について学ぶ。 ○ビオトープの改善について、5年生にアドバイスを与える。</p>			<p>「ビオトープを整備しよう」・「小川原湖を感じよう」 (20時間)</p> <p>小川原湖に生息する生き物やまわりの環境の観察、カヌー体験を通して、地域の自然の美しさ、地域の良さを感じることができる。</p> <p>○ビオトープに放流した生き物を観察するとともに、ビオトープを整備をする。(水草の採取・植樹など) ○カヌー体験を行い、水面や湖畔の様子を観察する。(小川原湖に生息する野鳥や水草の学習) ○課題を追求していく中で、疑問点や分からないことが出てきた場合は、ゲストティーチャーを招いて聞く。</p>			<p>「自分たちにできることを考え、まとめよう」(15時間)</p> <p>小川原湖について調べたことや活動を通して感じたことをまとめ、分かりやすく伝えることができる。</p> <p>○自分たちが調べたことや観察して分かったことなどを図や写真などを使って分かりやすくまとめる。 ○調べたり、まとめたりする中で、疑問点などが出てきた場合は、ゲストティーチャーを招いて聞く。 ○発表会に向けた練習をする。 ○河川事務所、NPO法人、漁協組合などの専門家、保護者等を対象にした発表会を開き、地域に発信する。 ※新型コロナウイルス感染予防のため中止</p>					
												

8.成果と課題

- カヌーに乗り、水面から地域を見ることにより、児童の地域の環境保全、水質の向上に対する意識が高まった。
- 5年生で生き物について調べた知識を生かし、ビオトープの改善策を児童が主体的に考えたり、教室内の水槽の飼育に意欲的に取り組んだりした。
- 専門家がいることで、ネットの情報に頼らずに、聞きたいことや分からないことなどを積極的に聞き、課題追求に役立つ姿がたくさん見られた。
- 4年生・5年生の活動を生かしながら、小川原湖の保全、地域の産業・観光などにつながるような学習展開になるような学習計画の改善・見直しが必要である。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：学校内（教室）

日付：5月12日

コメント：オリエンテーション

新年度をスタートするにあたり、総合的な学習の時間でどんな学習を進めていくか、オリエンテーションを行った。5年生には、昨年度の取組やビオトープの工夫について伝えた。昨年度挑戦した「養育」「繁殖」に力を入れたいという思いが強く、教室の水槽で継続して飼育していくことにした。そのためにどんな活動が必要かを話し合った。



フィールド：ビオトープ

日付：7月15日

コメント：ビオトープの整備

土場川土地改良区のスタッフや小川原湖自然楽校の先生にも協力してもらいながら、ビオトープを改善する活動を行いながら、生物の観察も行った。草取りをしたり、同じ種類の水草を集めて移植したりなど、自分達で考えながら活動していた。キタノメダカが目視で確認できるほど増えていて、自分達が改善したビオトープが役立っていることを実感できた。



フィールド：学校内（教室）

日付：7月20日

コメント：水槽の観察

タイリクバラタナゴの飼育を続けていたところ、産卵管がはっきりと出ているのを確認できた。子どもたちは、オスやカラス貝を増やすなど、タイリクバラタナゴの特性をよくとらえながら、毎日熱心に観察を続けていた。

8月になって、カラス貝だけ別な水槽に移して観察を続けると、8月末にカラス貝から稚魚が生まれて出てきた。子どもたちから大きな歓声があがった。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

[学校部門]

[活動写真]

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校・内海 浩幸



フィールド：小川原湖

日付：8月19日

コメント：カヌー体験

夏休みの出校日にカヌー体験を行った。始めに、陸上でライフジャケットやパドルの指導を行い、その後カヌーに乗って小川原湖に出た。

水上にはアサザや鳥の巣などがあり、普段見られない景色を堪能することができた。子どもたちは、自分たちの住んでいる地域の自然を豊かさを改めて実感していた。



フィールド：学校内（多目的ホール）

日付：12月16日

コメント：プロジェクトWET①

「水リンピック」「海の生物圏」などの学習を行った。水の表面張力を体験するゲームや深海を進んでいくカードゲームなどを通して、水に対する知識を深めることができた。

グループごとに協力して行い、活発に意見交換し、知恵を出し合って楽しく活動していた。川だけでなく、海の生き物についても興味をもつことができた。



フィールド：学校内（多目的ホール）

日付：12月17日

コメント：プロジェクトWET②

「やまのおろち」「川の流域探し」などの学習を行った。自分たちの地域の川をたどることで、地図上で源流を確かめることができた。源流付近の土地の様子などについて気付いたことを積極的に発言していた。山に染み込んだ水が長時間かけ、川となって流れてくることに感動していた。

注) 写真は5～6枚程度（枚数が多くなっても、また複数ページになってもかまいません。）

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2020-7212-014	甲地あおぞら水族館	青森県東北町立甲地小学校 内海 浩幸

助成事業の主な実施箇所

主な実施箇所 青森県上北郡東北町鳥口橋付近水路，湖畔橋付近ビオトープ

※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
 (縮尺は1/50万～1/100万程度)

